

## 本日のアジェンダ

はじめに・・・本学の紹介

I. はじまりは就業力育成

II. 平成25年度「地（知）の拠点整備事業」

III. 明らかになってきた課題・・・「見える成果」と「見えない成果」

おわりに・・・大学活性化のために

～西九州大学の事例から～  
学生の主体性を伸長させる取組

# 地域を活かす大学

西九州大学 副学長

地域連携センター長

井本 浩之

bernard@nisikyu-u.ac.jp

はじめに

# 大学の紹介



# 自己紹介

- 所属 西九州大学 副学長  
入試広報部長⇒学生支援部長⇒教務部長  
⇒学務部長（教務と学生支援の統合）  
⇒地域連携センター長・副学長
- 直近5年間の仕事  
「就業力育成支援事業」⇒「産業界のニーズ」  
⇒「地（知）の拠点整備事業」  
ベース： 大学生の汎用的能力育成に地域資源を活用
- 思考法：「ニーズは創り出すもの」「変化の重要性」

# 西九州大学の紹介

地域に生活する方々の生活を支援し、科学する大学・・・生活支援科学

- 学部 健康栄養学部・・・健康栄養学科  
健康福祉学部・・・社会福祉学科  
スポーツ健康福祉学科  
リハビリテーション学部・・・リハビリテーション学科  
子ども学部・・・子ども学科  
心理カウンセリング学科 (学部入学定員450)

- 研究科 地域生活支援科学研究科  
修士 地域生活支援学専攻博士前期 (H.27～)  
健康栄養学専攻  
臨床心理学専攻  
リハビリテーション学専攻  
子ども学専攻 (H.27～)  
博士 地域生活支援学専攻博士課程 (H.27～) (研究科入学定員21)

# はじめに③・・「地域を活かす大学」

「地域とともに・・・」「地域大学」言うは易く・・・しかしそれを具現化するには  
以下を実現する覚悟が必要

「地域を活かす」の二つの意味

## ◆地域を活性化する

- ・一過性の活性化 ⇒ 実質的な成果に基づいた本物の活性化
- ・地域との継続的なかわり
- ・定性評価から定量評価へ

## ◆地域を活かした学生教育・研究を推進する

- ・教育の場を地域へ⇒学生に力がつく⇒地域づくりに結実する
- ・研究テーマの地域志向化⇒実際に役に立つ、健康づくり・地産品の6次化等々による雇用創出

## ◆大学が本物のCOCになるには

「教育」「研究」「地域貢献」それぞれの境目が消滅していくような取組を  
すすめていくこと。⇒大学の目的が人材養成であったのは過去かも？

# 取組の概要および経緯

- I. はじまりは就業力育成
- II. 平成25年度「地（知）の拠点整備事業」

## 大学改革を推進する二つの改革

### 教育改革

- ・ 授業改善 (双方向型、参加型等)
- ・ 教員の教育力向上 (ファシリテーター等)
- ・ 学生の資質・能力向上 (グローバル人材、学修時間の確保等)

### 組織改革

- ・ 機能別分化に対応した改組・改編
- ・ 教学ガバナンス強化
- ・ 経営体質の強化 等



生き残れる大学へ

- ・ 社会変革のエンジンとしての
- ・ 地域再生の核となる

社会を変革できる

地域を再生できる 努力⇒成果

努力ではなく、成果を求められている！ 地域社会に真に必要とされる大学COCの具現化

# 就業力育成

## 多様な資質をもった大学生たち

- 進路について相談してきた学生Aとの対話

自立 ⇒ 経済的自立  
職業 ⇒ 安定、高収入、楽、人の役に立つ  
具体的には ⇒ 公務員  
なぜ？ ⇒ 親に言われてますから・・・

基本的には「素直な」「よい子」

しかし、「いつも受け身」  
「当事者意識欠如」

- 行動には理由がある

【社会的要因】 社会構造の変化  
核家族化（少子化）  
コミュニティの崩壊

機能不全をおこした家族というシステム  
「子どもを教育できない」教育機能不全

【心理的要因】 「同調圧力下」の人間関係  
目立ちたくない、なぜなら、一見仲良しと見える関係も、コップに張られた微妙な表面張力のような関係性で保たれているから

突出した行動⇒関係性の崩壊  
(例 前に踏み出す力の欠如)

# 大学の教育力？

---

▶ このような学生たちを大学の教員や職員が教育できるのか？



出来っこありません！ 私たちも同世代人です！

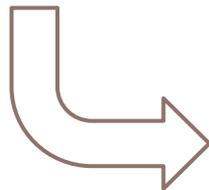
▶ しかし、できないと・・・弱小大学はつぶれます

▶ どうしよう・・・解決策はあるのか？

▶ ブレークスルーするには、

「ニーズをつくってしまおう！」（コミットできる環境）

「地域がキーワードでは？」（元気な学生は何をやっている？）



大学生の就業力育成支援事業  
（H.24からは産業界GPとして継続）

# 「はたらくこと」の意味づけ

---

- 学生の社会活動を「自立のための機会」という観点から捉え、就業やボランティアに区別を設けていない。
- はた（傍）らく（楽）ではないが、就業の意味づけを「自他ともに幸せになること、互いに恵みを与えあう関係性」（互惠性）と捉え、それを実感できるカリキュラムを設計（学外とのつながりが重要）。
- 次いで、様々な学外体験（サービスラーニング・インターンシップ）を実施。サービスラーニングに関しては **1年次全学必修化（教育の地域志向化の端緒）**

## 地域とつながる実践的教育カリキュラムの設定

---

- ▶ 本学共通教育科目群に「**実践教養**」科目群を設定し、初年次教育として2科目を**必修化**。
- ▶ 次いで、2年次、3年次に履修可能な2科目を就業力育成科目として選択にて設定。

1年次・ ・ 「基礎演習あすなろう」 (リテラシー等の基本スキル獲得)

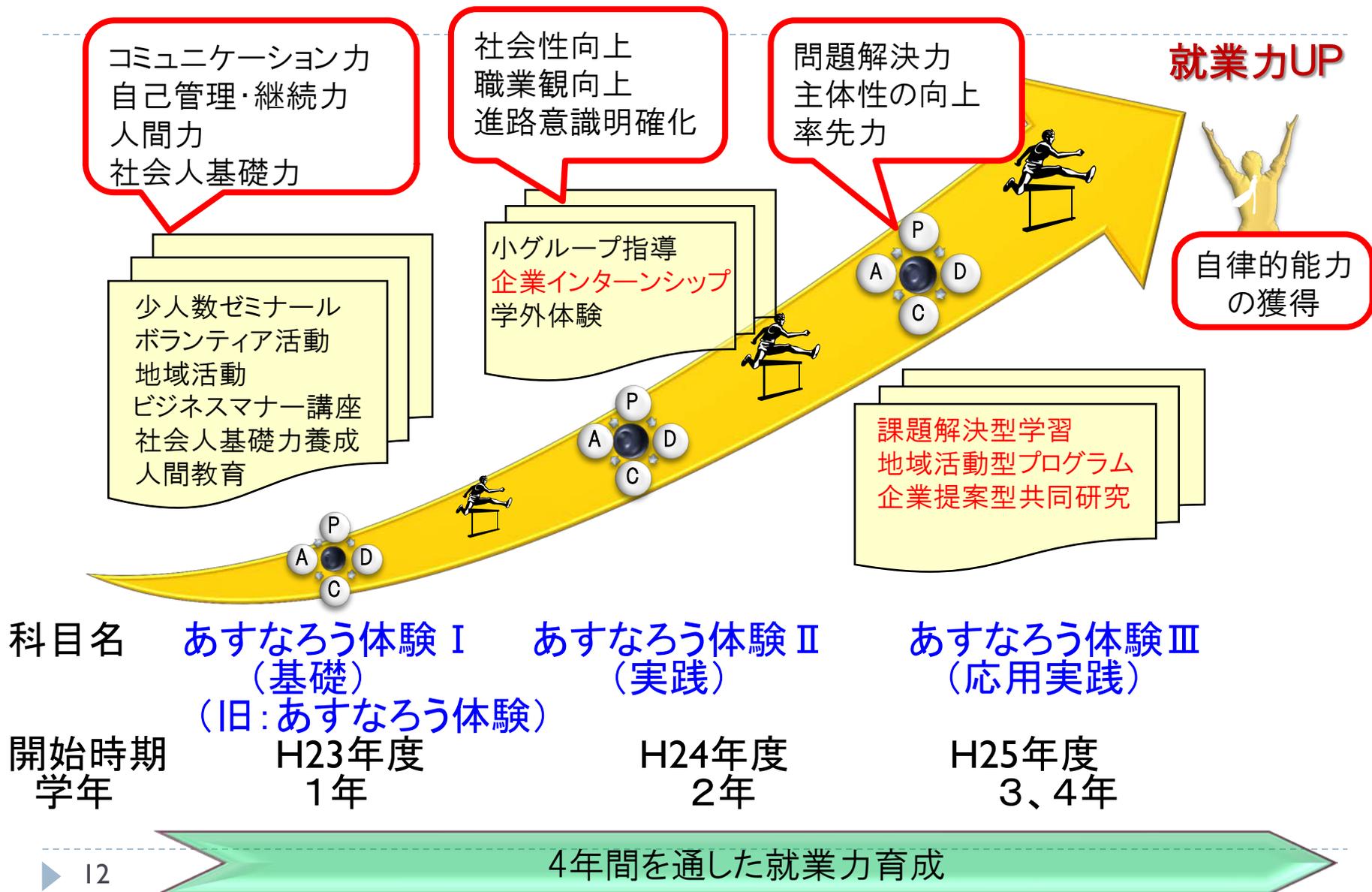
「**あすなろう体験Ⅰ**」 (サービスラーニング)

2年次・ ・ 「**あすなろう体験Ⅱ**」 (主にインターンシップ)

「**あすなろう体験Ⅲ**」 (PBL)

赤文字が本学教育の地域志向化を実現する科目

# 本取組の概要



# あすなろう体験活動

- ▶ 学内外でのボランティア等体験活動を1年次必修科目として整備（地域志向カリキュラムの端緒）
- ▶ 1年生は、あすなろう体験Ⅰを必修として履修する。  
単位は、体験活動をポイント化し、最低11p獲得にて単位修得条件とした。

体験活動にボランティア活動の自主性の要素を取り入れるために、活動の選択は学生自身が選択する仕組みとした。

## 体験ポイントの目安

講座型・・・1P

ボランティア等活動型・・・半日2P、終日4P

災害ボランティア等・・・最大で10P

条件として、自らの所属する専門領域外から半分以上を取得

# 体験活動レポート

(学生個人の体験活動状況確認ページ)

● 必須ポイント: 総合計ノルマ [ 11 ]、他学科 [ 6 ]

あすなろう体験Ⅰ 応募状況及び修得ポイント等							
活動期間	[活動番号] 募集名称	自学科	他学科	etc	応募状況	レポート	提出期限
2011.12.11 から 2011.12.11	[ 11-0-88 ] <a href="#">初回講座の出席者のみ対象 第5回 大和特別支援学校PTA ボランティア養成講座</a>				応募中	未提出	2011.12.16
2011.07.10 から 2011.12.11	[ 11-0-24 ] <a href="#">(6p)大和特別支援学校PTA ボランティア養成講座</a>				応募確定	未提出	2011.12.16
2011.09.23 から 2011.09.23	[ 11-0-87 ] <a href="#">初回講座の出席者のみ対象 第4回 大和特別支援学校PTA ボランティア養成講座</a>				応募中	未提出	2011.09.30
2011.08.20 から 2011.08.20	[ 11-0-63 ] <a href="#">第9回ななかばる紀水苑 夏祭り ボランティア募集</a>				応募確定	未提出	2011.08.26
2011.08.07 から 2011.08.07	[ 11-0-49 ] <a href="#">佐賀城下栄の国まつりの「縦おどり」への参加募集</a>				応募中	未提出	2011.08.12
2011.07.24 から 2011.07.24	[ 11-0-85 ] <a href="#">初回講座の出席者のみ対象 第2回 大和特別支援学校PTA ボランティア養成講座</a>				応募確定	<a href="#">レポート</a>	2011.07.29
2011.06.12 から 2011.06.12	[ 11-0-10 ] <a href="#">第59回全国ろうあ者大会in佐賀 託児・保育ボランティア募集</a>		4		修得	<a href="#">レポート</a>	2011.06.20
2011.05.14 から 2011.05.15	[ 11-0-04 ] <a href="#">「友だち100人できるかなキャンプ」学生ボランティア募集</a>		6		修得	<a href="#">レポート</a>	2011.05.20

# 体験活動レポート

## (体験活動レポートの実例)

### 1年【社会福祉学科】

活動番号	13-0-114
募集名称	【10 P 活動】佐賀ライトファンタジー2013実行委員の募集
活動日程	〔開始日〕 2013.10.09 12:10 から 〔終了日〕 2013.10.30 19:00 まで
活動内容等	佐賀市内のライトファンタジー開催に向けて、学校での練習としての電球の取り付けから、実際に佐賀市内での取り付け作業。
感想	<p>【意識する社会人基礎力】 活動は神宮キャンパスの皆さんや佐賀県庁の方々もいらっしゃって、この活動で初めて会う人がほとんどだったが、その中で助けあったり、声を掛け合ったりして協力すること。</p> <p>【活動において何を学ぶのか】 佐賀市内で行われるさまざまなイベントの主旨を考えたり、そこに参加することによってイベントを作り上げていく過程を学び、佐賀の活性化について考える力。</p> <p>【具体的な活動内容】 LED電球を使い、佐賀市内駅周辺の様々なところを飾り付けていき、その際、色の配色や置き方を考えながら行う。</p> <p>【活動の振り返り】 たくさんの方々とお会いすることができ、電球の飾り付けを通して協力しながら行う楽しさを学ぶことができた。また、飾り付けた後に電球を光らせた時の達成感は格別だった。これまでと違う佐賀を知ることができたので参加してよかったと思う。</p> <p>【次回の活動に向けて】 初めて出会った人もたくさんいる中で長期間活動して、最初からもっと積極的に話しかけたりすべきだったと感じる面があったので、今後の活動に生かしていこうと思う。</p>

# 4年が経過して・・・

- 学生たちの体験活動数・・・のべ3200名以上（体験Ⅰ）

地域の方からは学生派遣依頼が絶えない

- もちろん失敗もあります

・・・遅刻、無断欠席（派遣先から苦言）

何の役に立つのか

タダで働くバイトか！（教員から苦言）

- 定性評価

・・・元気な学生がふえた（教員談）

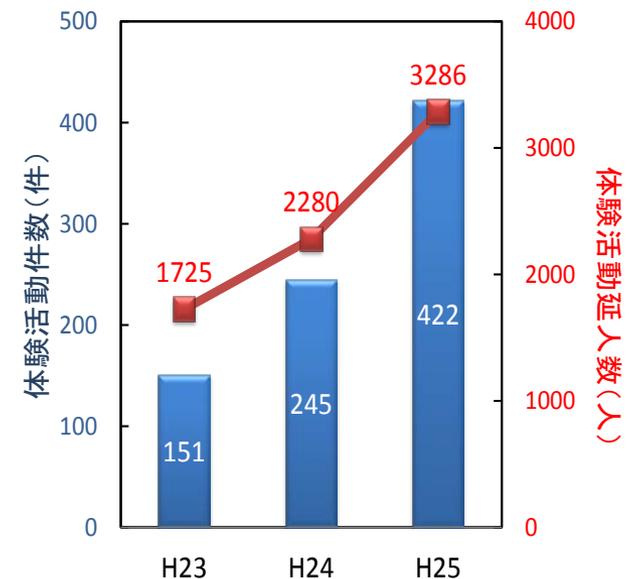
・・・学生の感想

「してやっている」ではなく

「させていただいている」増

あすなろう体験Ⅰ  
取組実績

あすなろう体験Ⅰ  
体験活動件数及び  
体験活動延人数の推移



(H26.1月末現在)



# 評価

社会人基礎力確認テスト(本学オリジナル)「経済産業省が提唱している社会人基礎力(3つの能力、12の能力要素)を意識レベルと行動レベルとに分け、分かりやすい設問を設け、答えやすいよう工夫したもの」

「あすなろう体験 I (基礎)」の履修開始時(23年5月)および修了時(24年1月)の2回テストを実施(平成26年度まで毎年実施済み)

25年度から実施予定である子ども学科の学生に能力の伸展がほとんどなかったのに比して、本科目を受講した学生(例:健康栄養学科)においては、ほとんどの能力が高まったことが明らかとなった(図)。26年度まで同様の傾向を示す。

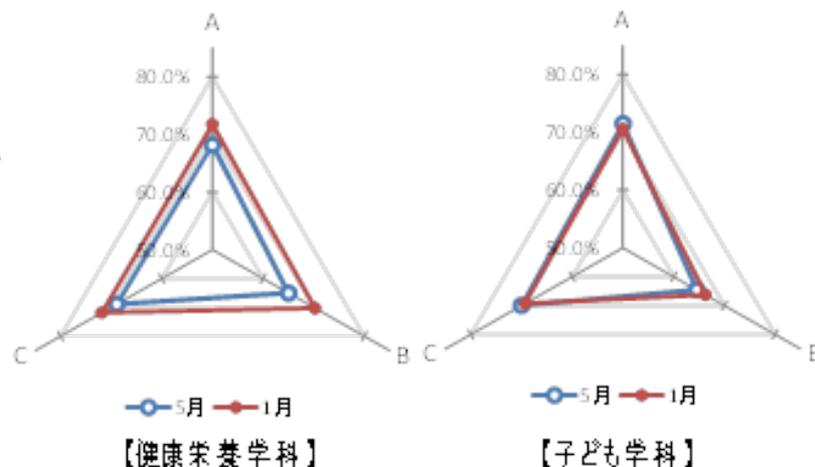


図2. 社会人基礎力テストによる3つの能力の達成度  
(A:前に踏み出す力、B:考え抜く力、C:チームで働く力)

## 学生による授業評価の結果

「約8割が社会人基礎力がついたと実感し、約7割が学習意欲が湧いたと回答」

## 地域と大学を接続するには・・・本学体験型学修の課題

---

体験型学修は3種類

- ①モチベーション喚起型
- ②サービス・ラーニング型
- ③課題解決型（プロジェクト型）

本学の平成24年度までの取り組みは①②に止まっている。

③を実現するには専門教育課程との連動が不可欠。

あすなろう体験Ⅲは③をめざしているが、選択科目であり履修者が少ない。

地域と真につながっていくには、地域課題解決までも含んだ、成果をともなう教育の実施（必修を含んだ正課授業の展開）が必要。

平成25年度 地（知）の拠点整備事業

「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」へ

---

## Ⅱ．平成25年度「地（知）の拠点整備事業」

平成25年 地（知）の拠点整備事業 採択  
佐賀大学・西九州大学の共同申請

取組名称

「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」  
通称：「コミュキャン佐賀」

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育・研究を通じて、地（佐賀県域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。

このプロジェクトは佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町の1県6市1町と連携し、両大学とも地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的なプロジェクトとして推進します。

大学等名：西九州大学（連携自治体：佐賀県、佐賀市、神埼市、小城市、吉野ヶ里町）  
 事業名：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト

## プロジェクトの概要

西九州大学は佐賀大学と共に、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地（佐賀県全域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。両大学は、地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的な連携プロジェクトを実施しています。

### (H)介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

学生と教員が連携自治体において実施する心身機能調査  
 ⇒認知症等の早期発見、参加学生の修学意欲、地域社会への参画意識の醸成  
 佐賀大学プロジェクトGと連携



### (I)保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム

専門職学生（栄養・福祉・リハビリ・子ども教育）の育成を、地域課題解決型授業を実施することで実現⇒特定検診受診率UP作戦、食育事業の展開等



### (J)「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり

健康者のみならず、障がいをもたれた方など地域で暮らす全ての人が相互に関わる「場」や「機会」を創出できる人材「街なかサポーター」を育成



佐賀大学プロジェクトA・Fと連携

## 地域課題解決へ向けた5プログラムを展開

### 連携自治体が抱える諸課題

- ・地場産業振興  
 特に地場産品活用（6次化）
- ・中心市街地活性化  
 空き店舗活用、賑わいづくり等
- ・保健・医療事業の充実  
 認知症予防、介護予防
- ・食育・子育て支援
- ・まちなかでの安心生活実現
- ・地域住民のコミュニティ参画等々



佐賀県

### (K)産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

学生自らがチーフプロデューサーとなり、地域の生産者や企業とチームを組み、佐賀の地域性や食品のもつストーリー性に着目した大学発食品開発を行っている



佐賀大学プロジェクトGと連携

### (L)地域社会と連携した交通UDプロジェクト

連携自治体の中心市街地を対象に地域の交通インフラが抱える課題を発見するための実地調査を行い、原因解明、解決策を考えるための地域活動や、ワークショップ実施



佐賀大学プロジェクトFと連携

### 【連携自治体での取組の実績・目標】

	H.26前期実績	H.29目標値
フィールド展開授業数	25講座	30講座以上
フィールド授業参画学生延べ数	745名	1780名
地域活動に関心をもつ学生割合	65%	78%
地域課題解決教育研究に関心をもつ教員の割合	26.2%	36.4%
地域住民のCOC事業への認知度	53.5% (佐賀市のみ)	64.2%
学生地域活動への住民による評価（肯定評価）	66.2% NA24% (佐賀市のみ)	80%

### 【活動成果】

#### 介護予防リハビリ教育プログラム(H)を例として

1. 連携自治体において、地域在住高齢者221名の心身機能調査を実施
  - ・認知症疑い、鬱の早期発見（77名）⇒支援機関へ
2. 参加学生285名への調査から
  - ①学外活動が4年次の長期実習に及ぼす影響について質問⇒93%の学生が臨床実習への好影響を回答
  - ②実習後の学生の主観的満足度を質問⇒学外活動が多く行った学生の実習満足度が高位
  - ③実習中の客観的評価（実習先からの評価）⇒学外活動が多い学生群の評価が高位

# あすなろう体験からコミュキャン佐賀へ

- ・ 専門教育でも地域志向化をおこなう。シラバスの徹底的な見直し（専門科目でも汎用的能力育成要素を明示）
- ・ 各プロジェクトの実施に**必修を含む**正課授業を適用。
- ・ 人材養成・学生教育の一步先へ（成果を出す）  
教育の成果が地域課題の解決等に直結する。
- ・ 地域貢献活動が正課授業で担保されることで事業の継続性が担保される。「補助事業だから」ではない！**COCに終わりはない**
- ・ あすなろう体験では、学生が地域に出た。コミュキャンでは教員・職員も地域に出た（教職員の不安はMax）。しかし、教職員は、地域社会から温かく迎えられた（教員や職員の不安は杞憂におわった）。

# 取組の課題



### Ⅲ. 明らかにになってきた課題 「見える成果」

- ▶ 5つのプロジェクトには、初年度から「見える成果」を生み出したものもあるが、「見えない成果」にとどまるものも多い。

見える成果の例・・・認知症疑い者、うつ傾向者の早期発見  
・・・農産品の6次化にむけた商品開発

しかし、  
「見える成果の多くは」  
┌ 売れない商品開発、自己満足の教育・研究  
└ 「なんちゃって活性化」

本物の見える成果を生み出すためには・・・

「プロジェクト型学修の在り方を各教員が熟知する必要あり」

「プロジェクトの目標（着地点）を取組前に自治体等関係者としつかりと話し合い、明確にしておく必要あり」

「学修ポートフォリオの活用が必須」 「やりっぱなしはNG」

### Ⅲ. 明らかにになってきた課題

「見えない成果」 ・ ・ 住民等からの定性評価、学生の能力評価等々

▶ 学修成果とくに学生の能力獲得は「見えない成果」にとどまる。

就業力育成評価には、「社会人基礎力確認テスト」を用い、学生の自己評価および、各学科で設定した「評価ループリック」で対応した。

一番の問題点は、対象科目だけに限定した評価であって、大学でのすべての学修活動をもって、学生の能力進展を評価する仕組みではないという点。

本学は、平成25年度「地域大学宣言」を発出し、大学全体の教育・研究を地域志向化することを大学のミッションとした。

この大前提に従えば、大学のカリキュラム全体が、地域人材育成へとシフトしたと考えざるをえない。⇒地域志向教育を具現化する能力育成要素をほぼすべての科目に取り入れるには・・・ ???

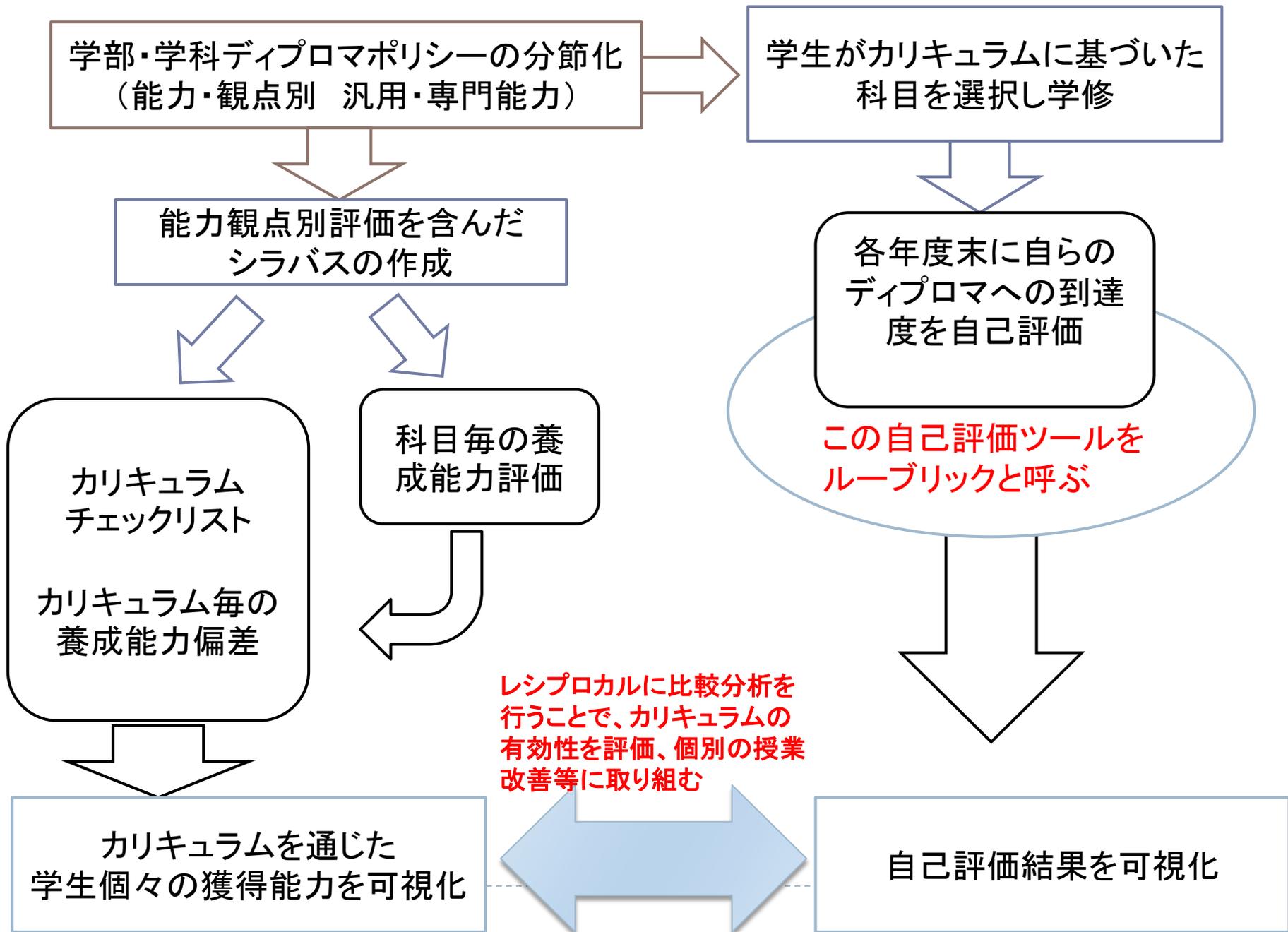
# 「学修成果」の見える化 無謀か挑戦か？ ディプロマPの分節化

## 到達目標と学修成果

【共通】汎用的能力要素（到達目標）及び学修成果	<p>【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 （態度・志向性）</p> <p>1) 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標表現のために協調・協働して行動できる。</p> <p>2) 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使できるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに則って行動し、社会の発展のために積極的に関与できる。</p> <p>3) 生涯にわたって自律・自立して学習できる。</p>	<p>【教養ある社会人としての基礎力】 （知識・理解）</p> <p>1) 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に理解できるとともに、それを外部的視点でとらえ返し、自己と関連づけ理解することができる。</p> <p>2) 多文化・異文化に関する知識の理解ができる。</p> <p>3) 人類文化、社会、自然に関する知識の理解ができる。</p>	<p>【社会人としての汎用的能力】 （技能・表現）</p> <p>1) 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。</p> <p>2) 自然や社会現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。</p> <p>3) 情報や知識を複眼的、論理的に分析・表現することを通して、問題を発見し、その解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題に的確に対応できるとともに、それらをICTを用いて、表現・伝達することができる。</p>	<p>【地域生活を支援し、創造する力】 （行動・経験・創造的思考力）</p> <p>1) 地域での実践活動をもとに、主体的・自立的に行動できる確かな人間力としての態度や志向性を総合的に活用し、地域課題を解決するための行動ができる。</p> <p>2) 地域での実践活動をもとに、教養ある専門職としての基礎力である知識や理解を総合的に活用し、地域課題を解決へとつなぐことができる。</p> <p>3) 獲得した知識、技能、態度、志向性を総合的に活用し、実践活動から課題を見出し、新しい価値を創造することを通じて、地域課題を解決することができる。</p>
-------------------------	---	--	---	---

【リハビリテーション学科】専門的能力要素（到達目標）及び学修成果	<p>【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 （態度・志向性）</p> <p>1) 専門職業人として、人間性豊かで責任ある行動がとれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間の生活と人権を考慮できる。</li> <li>社会人としてマナーを身に付ける。</li> <li>約束を守ることができる。</li> <li>規則を守ることができる。</li> <li>自己管理ができる。</li> </ul> <p>2) 対象者らと共に感性をもって真摯な態度で接することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場を理解し、共感・受容できる。</li> <li>理学療法・作業療法を必要とする人を全人的に理解することができる。</li> <li>理学療法・作業療法を必要とする人やその家族の心理を理解できる。</li> </ul> <p>3) 多種多様な文化や価値観に関心を持ち、人の生活と人権を考慮し、理学療法や作業療法の発展や向上を目指すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修の成果を発展させ、自らの生活や社会に還元しようとする態度を身に付けている。</li> <li>特別講義・研究会などに積極的に参加できる。</li> </ul>	<p>【教養ある専門職業人としての基礎力】 （知識・理解）</p> <p>1) 人体の構造と機能及び病がらについて理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造について理解する。</li> <li>人体の機能について理解する。</li> <li>疾病と障がらについて理解する。</li> </ul> <p>2) 専門職として必要な評価・治療等に関する基礎知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法・作業療法における評価、治療の流れを理解できる。</li> <li>理学療法・作業療法における評価について知識や方法を修得できる。</li> <li>理学療法・作業療法における治療の知識や方法を習得できる。</li> </ul> <p>3) 対象者の身になって他者を理解して、全人的・総合的かつ専門的な評価と実践の計画立案ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IOFの相互関係を理解できる。</li> <li>対象者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法を理解できる。</li> </ul>	<p>【専門職業人としての汎用的能力】 （技能・表現）</p> <p>1) コミュニケーション技法をもって他職種および地域社会と協業できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。</li> <li>チーム医療に必要なコミュニケーションの技法を修得し実践できる。</li> </ul> <p>2) 対象者をより健康な状態に導くために必要な専門的な対処方法が取れ、支援できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習指導者のもと対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法、作業療法（評価・治療計画立案・治療プログラムの実践）を実施できる。</li> <li>対象者の予後を予測することができる。</li> </ul> <p>3) 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、その結果を適切に表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理することができる。</li> <li>課題解決に向けて実践することができる。</li> <li>実施したことを報告書としてまとめることができる。</li> <li>症例レポートが書ける。</li> <li>課題レポートが書ける。</li> <li>プレゼンテーション力を身につける。</li> <li>自分が考えていることをまとめ、人前で発表ができる。</li> </ul>	<p>【地域生活を支援し、創造する力】 （行動・経験・創造的思考力）</p> <p>1) 地域の課題を拾い上げ課題解決に取り組み、地域社会から多くを学ぶために必要な知識と方法を修得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障の制度・医療保険・介護保険について理解できる。</li> <li>保健・医療・福祉の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。</li> <li>病院・施設・在宅におけるアプローチの方法について理解できる。</li> </ul> <p>2) 全ての人々が健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生活する人を支援することができる。</li> <li>ボランティアなどに積極的に参加し、地域社会に貢献できる。</li> <li>チームの一員として協調性を持つことができる。</li> </ul> <p>3) 社会や自然の抱える諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察して、自らの見解を形成することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人と社会、自然と環境について主体的に関心を持ち、自主的・自立的に学修を続けることができる。</li> <li>研究に関心を持ち、分析・考察することができる。</li> </ul>
----------------------------------	--	---	---	--





# おわりに

---

元気な学生を育てるには・・・（本学の場合）

- ・ 学生を地域に出すためのプログラムを必修化すること
- ・ 学修成果（学生の成長）と事業成果（地域の活性化）の両立
- ・ 学生が自らの成長を確認できる仕組みを作る

これらに取り組んでいるわけです。

「地域とともに・・・」「地域大学」言うは易く・・・道半ばにあります。



ご清聴ありがとうございました